

WAVE



特集

阿蘇地域振興デザインセンターって
何をしているの？

■豊かな自然による世界ブランドの確立

文化的景観と食による

地域ブランド力を考えるシンポジウム

阿蘇スタディツアー

ジオパーク一周年感謝祭

■地域の元気再生による地域力向上

阿蘇地域元気再生支援事業

「阿蘇暦の発行」と

ラジオ番組で情報発信

■広域連携による競争力のある観光地づくり

阿蘇くじゅう観光圏

公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター

〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地2402(熊本県阿蘇総合庁舎内)

TEL0967(22)4801 FAX0967(22)4802

URL <http://www.asodc.or.jp/>

阿蘇地域振興デザインセンターって何をしているの？

阿蘇を構想する。結ぶ。創り出す。……つまり、阿蘇の自然と地形を活かし、阿蘇をデザインする機関です。

具体的にこんなことをしています。

地域の意思を汲み、地域資源を探索し、社会の動静を捉え、アイデアを練り、新たなネットワークを築き、関係先をコーディネートします。そのために下記の順序で進めています。

事業計画
(平成 24～28 年度)

阿蘇をデザインする
事業の計画
(中期計画)
を作成します。

平成 24 年～平成 28 年までは下記の事業計画を実施中です。

- 豊かな自然による世界ブランドの確立
- 地域の元気再生による地域力の向上
- 広域連携による競争力のある観光地づくり

プロジェクト
事業

計画を推進するための
プロジェクト事業を
具体化していきます。

各年度ごとに、事業計画に従ってプロジェクト
事業を立案し、活動を促します。

活動
事業報告

実際に活動を
実施します。

プロジェクト事業ごとに活動を実施します。

What is Aso Design Center

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターは、旧阿蘇郡12か町村と熊本県が基金を出し平成25年5月に創設された機関が前身です。基金の運用益をもとに、地域全体が自立自興の精神を掲げ、恵まれた自然・景観との調和を図りながら魅力ある地域の振興を図る組織として事業を展開してきました。基金の増額に伴い、地域振興、観光振興、環境・景観保全、情報発信へと取り組みは発展し、九州中央部に位置し熊本県の宝である「阿蘇」を活性化させる実績は各方面から注目され、評価されてきました。

当財団では中期計画（平成24年～28年）を下記の3つの柱で定め、社会公益性をより発揮できるよう事業を推進しています。

1. 豊かな自然による世界ブランドの確立
2. 地域の元気再生による地域力の向上
3. 広域連携による競争力のある観光地づくり

現在、わが国では地方の地域振興、活性化を目的とした「地方創生」に向けた取り組みが始まっています。地方の資源と知恵により活性化を図り、地方に人々が集まる仕組みづくりが重要な課題となっています。当財団でも地域活性化に向けたさらなる施策の展開を、平成29年度からの新たな中期計画により推進してまいります。

「地方創生」の一助となるべく、私たち財団へ向けられる地域からの期待はますます大きくなっていくものと思われまします。地域の意思を汲み、地域資源を探索し、社会の動静を捉え、アイデアを練り、新たなネットワークを築き、関係先をコーディネートするという、阿蘇地域振興デザインセンターがこれまで担ってきた役割はさらに重要度を増していくでしょう。これまで当財団の実施事業情報をお届けしてきた機関誌「WAVE」も今回をもって最後となります。次からは、新たなカタチで情報を皆さまへお届けしてまいります。次からは、新たな後も役員、職員一丸となり、地域の生活と文化を通し社会へ貢献できる組織として着実に成果を上げ、その使命を果たせるよう努力してまいります。



公益財団法人
阿蘇地域振興デザインセンター

理事長 北里 耕亮

平成 27 年度の事業実績	平成 26 年度の事業実績
1. 豊かな自然による世界ブランドの確立 1) あか牛振興事業「地域連携講座」(熊本市・東京あか牛試食会) 2) 阿蘇ジオパーク活動の推進 3) 草原再生PR事業(草原保全支援システムへ負担金支出) 4) 野焼き支援事業(草原保全支援システムへ負担金支出)	1. 豊かな自然による世界ブランドの確立 1) 草原再生PR事業「あそ大草原物語」の開催 2) 草原再生PR事業「阿蘇地域航空写真撮影及び略モザイク作成」 3) 野焼き支援事業「阿蘇スタディツアーの開催」 4) 野焼き支援事業「地域活性化総合特別区域認定計画策定」 5) あか牛振興事業「阿蘇地域世界農業遺産ブランディングフォーラム」 6) あか牛振興事業「観光利用放牧地等整備調査業務」 7) 阿蘇ジオパーク活動の推進 8) 阿蘇の景観と食に関するフォーラム
2. 地域の元気再生による地域力向上 1) 阿蘇地域元気再生支援事業 2) 情報誌の作成 ①情報誌「ASO大陸」 ②機関紙「WAVE」 ③阿蘇歳時記カレンダーブック(阿蘇暦) 3) ラジオ番組の放送	2. 地域の元気再生による地域力向上 1) 阿蘇地域元気再生支援事業 2) 情報誌の作成 ①情報誌「ASO大陸」 ②機関紙「WAVE」 ③阿蘇歳時記カレンダーブック(阿蘇暦) 3) ラジオ番組の放送
3. 広域連携による競争力のある観光地づくり 1) 観光地域ブランド確立支援事業(国土交通省/観光庁補助) ①阿蘇ジオパークガイド育成 ②阿蘇ジオサイトコースマップ作成 ③阿蘇ジオツアーモニタリング調査 ④阿蘇くじゅう観光圏ガイド連携システム構築 ⑤阿蘇くじゅう観光圏満喫パンフレット作成 ⑥千年の草原を活用したプログラム開発 ⑦阿蘇草原トレイル補修安全環境整備 ⑧阿蘇くじゅう観光圏モニタリング調査 ⑨阿蘇くじゅう観光ツーリストマップ作成 ⑩阿蘇くじゅう観光プロモーション活動 ⑪阿蘇くじゅう観光圏セミナー開催 ⑫阿蘇くじゅう地域コンシェルジュ育成研修 ⑬阿蘇温泉郷・湯ごもり祭開催 ⑭阿蘇スローフードフェスタ開催 2) 阿蘇カルデラツーリズムの推進 ①エコツーリズムの推進 ②グリーンツーリズムの推進 ③タウンツーリズムの推進	3. 広域連携による競争力のある観光地づくり 1) 観光地域ブランド確立支援事業(国土交通省/観光庁補助) ①阿蘇ガイド育成研修プログラム ②阿蘇ジオサイトコースマップ作成 ③阿蘇くじゅう観光圏ガイド連携システム構築 ④千年の草原を活用したプログラム開発 ⑤阿蘇北外輪地域資源調査開発 ⑥阿蘇溶岩トンネル安全性検討調査 ⑦阿蘇くじゅう観光圏モニタリング調査 ⑧阿蘇くじゅう観光ツーリストマップ作成 ⑨阿蘇くじゅう観光プロモーション活動 ⑩阿蘇くじゅう観光ビジュアルイメージ創出 ⑪阿蘇ジオパーク地域住民啓発プロジェクト ⑫阿蘇くじゅう観光ブランドセミナー開催 ⑬阿蘇くじゅう地域コンシェルジュ育成研修 ⑭阿蘇温泉郷・湯ごもり祭開催 ⑮阿蘇スローフードフェスタ開催 2) 阿蘇カルデラツーリズムの推進 ①エコツーリズムの推進 ②グリーンツーリズムの推進 ③タウンツーリズムの推進 3) 回遊の交通体系づくり ①あそまる切符への支援 ②阿蘇レンタサイクル(電動アシスト機能付き)運営

※上記の事業の中からいくつかをピックアップして実績結果を掲載しています。(次ページから)

阿蘇の草原を維持・再生のための野焼き支援事業



「阿蘇スタディツアー」の開催

問題は野焼きボランティアの高齢化
そこで、現在直面しているのが野焼きボランティアの高齢化です。その対抗策として、当財団ではボランティアーズム（ボランティア+観光）形態を通して、若年層や外国人向けに、新たな担い手ボランティアの拡大・阿蘇来訪者の増加を図る「阿蘇スタディツアー」と題した、1泊2日での阿蘇の草原を体験する・知る・守るツアーを企画しました。



阿蘇草原再生
千年委員会の設立
気運・行動
阿蘇草原再生
募金の開始

目指すもの
世界文化遺産
認定を目指す

取組み
阿蘇環境
デザイン策定事業

世界農業遺産に
認定

（阿蘇の豊かな自然による
世界ブランドが評価される）



文化的景観と食による地域の ブランド力を考えるシンポジウム

世界文化遺産登録へ向けて

当財団では平成23年から平成26年の四カ年、熊本県と共同で「阿蘇環境デザイン策定事業」に取り組んできました。これは、世界文化遺産登録に向けた地域資源の確認と運動啓発を睨み、「阿蘇の文化的景観」の保全計画の検討を目的としたものです。

阿蘇地域を舞台に重要な文化的 景観の選定への足がかり

平成26年は阿蘇くじゅう国立公園が指定80周年を迎え、また阿蘇地域が世界農業遺産に登録されて1周年でした。前出の保全計画が、国立公園の素養と特異な農文化の側面を有す阿蘇地域を舞台に、いよいよ重要な文化的景観の国に対する選定申出に目途が立った年でもありました。

記念のシンポジウムを開催、 フランスの地理学会誌でも阿蘇を紹介

こうした事柄を合わせ、記念のシンポジウムを熊本大学と共催しました。食と景観の世界的権威であられるパリ・ソルボンヌ大学前総長のJ・R・ピット教授を迎え、熊本と東京で表題の講演をいただきました。

またフランス地理学会誌の秋号に早速J・R・ピット教授が阿蘇の紹介記事を寄稿してくださったこともおしらせしておきます。



草原を維持・再生する気運と

世界農業遺産の認定で世界的評価

熊本県下では、阿蘇草原再生千年委員会の設立や阿蘇草原再生募金の開始等により、阿蘇の草原を維持・再生する気運が高まっています。そのような中、世界農業遺産に「阿蘇の草原の維持と持続的農業」が認定され、阿蘇の豊かな自然による世界ブランドがまた一つ世界的に高い評価を受けたこととなります。

次は世界文化遺産の認定を目指す

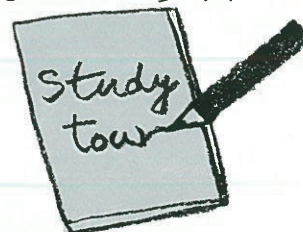
今後は世界文化遺産認定を目指す、豊かな自然を守りながら活用していくことが重要になってきます。ここでは、阿蘇の貴重な財産である「草原の維持・再生」を中心に、環境・景観保全の促進を図りました。

学生の情報発信が効果

今回は立命館アジア太平洋大学と九州大学の学生37名の参加があり、阿蘇の野焼きの現状などを把握し、阿蘇の草原維持の活動や阿蘇の自然についてより多くの人に伝えるため、参加学生にはFacebookやTwitterなどのSNSを通し、阿蘇の情報を発信してもらうとともに、地域施策反映へ向けた検討材料とするためアンケート調査も協力してもらいました。

学生の意欲に期待

阿蘇スタディツアー終了後、阿蘇の草原について学んだ九州大学の学生たちは、自ら「野焼きボランティア」初心者研修会に参加し、博多で行われた「くまモンファン感謝祭 in Fukuoka」内でも草原のPRに努めました。また、実際の野焼きにも参加する意欲を見せてくれました。





阿蘇ジオパーク活動の推進



「阿蘇ジオパークフェスタ感謝祭」の開催



ジオパーク認定一周年記念

平成26年9月23日阿蘇ジオパークが世界ジオパークに認定されました。そこで平成27年9月27日、阿蘇草原保全活動センターにて、世界ジオパーク認定一周年記念「阿蘇ジオパークフェスタ感謝祭」が開催されました。

多彩な催し物で大勢の来場者が楽しむ

阿蘇ジオパークブランド認定品や九州内のジオパークから美味しいジオの恵みが並んだ他、阿蘇のススキを使った「フクロウ作り」や火山灰粘土を使った「あそGeoすけっち大会」、ジオパークOXクイズや大抽選会、阿蘇地域のキャラクター達との撮影会など、1400人の来場者が「ジオ」に触れ、楽しむ姿が見られました。

世界に阿蘇の情報を発信、地域経済への活性化

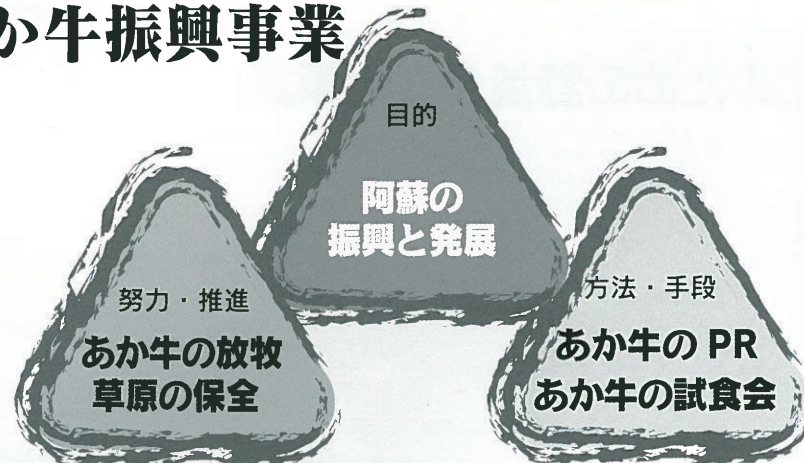
世界ジオパークに認定されたことにより、世界に阿蘇の情報が発信され、見学者や観光客が訪れ、地域経済の活性化が期待されます。また、大地の成り立ちを学ぶジオパークの取組みは地域学習の素材にもなり、ジオパーク活動を通じて、地域の良さを住民や子どもたちが知り阿蘇の大切な自然景観、環境を守り続けていく意識も高まるなど、様々な効果を生み出し、今後阿蘇の更なる地域振興につなげていかなければなりません。



ジオパークとは

ジオ(大地)に関わるさまざまな自然遺産。たとえば、地層・岩石・地形・火山・断層などを含む自然豊かな「公園」のことです。山や川をよく見て、その成り立ちに気付くことに始まり、生態系や人々の暮らしとの関わりまでをつなげて考える場所です。足元の岩石から頭上の宇宙まで、数十億年の過去から未来まで、海や山の大自然からそこに暮らす生き物と人々までを一つにして考える。つまり地球を丸ごと考える場所、それがジオパークです。

あか牛振興事業



「地域連携講座」の開催



健康な野草が 良質の畜肉を生産

あか牛の放牧が草原の保全へつながるといふ見地から、あか牛のいる風景、あか牛を育てる健康な野草、そして生産される良質な畜肉が生活者へ注目されるよう取り組んでいます。

阿蘇の農畜産品を 首都圏へPR

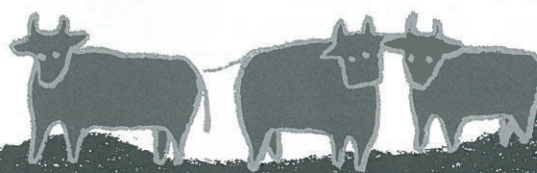
草原景観を代表するあか牛や阿蘇の農畜産品を首都圏消費者へPRしながら消費者と生産者をつなぐ交流を進めます。

あか牛の試食会やマーケティング講座を開催

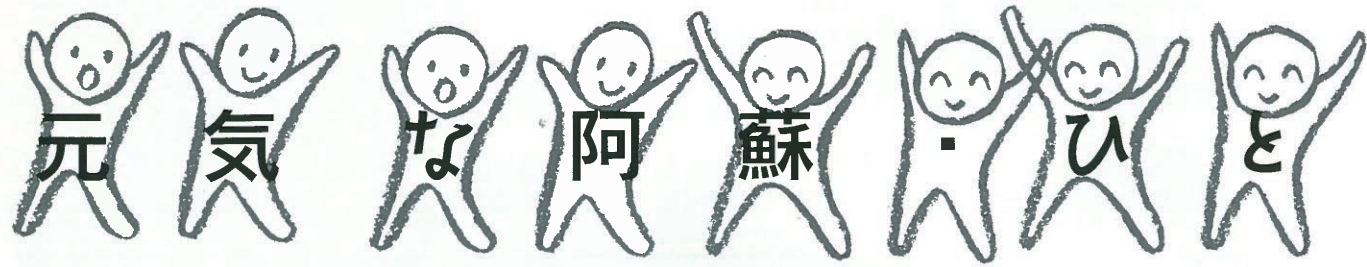
一昨年、東京での講座開催を通じて阿蘇PRとあか牛の試食会を行なってきました。今年2月はグランメッセ熊本で開催された熊本振興フェアに、あか牛の阿蘇での繁殖・肥育をアピールするブースを出展するとともに、畜産関係者、飲食関係者を聴講者に集めてのマーケティング講座を開催しました。

女性の力であか牛の価値・普及活動などを情報発信

また3月に東京で開催された地域振興に取り組み、女性たちによる全国集会においてあか牛の試食会を開催し、あか牛の価値の確認と普及に向けた情報発信を行いました。

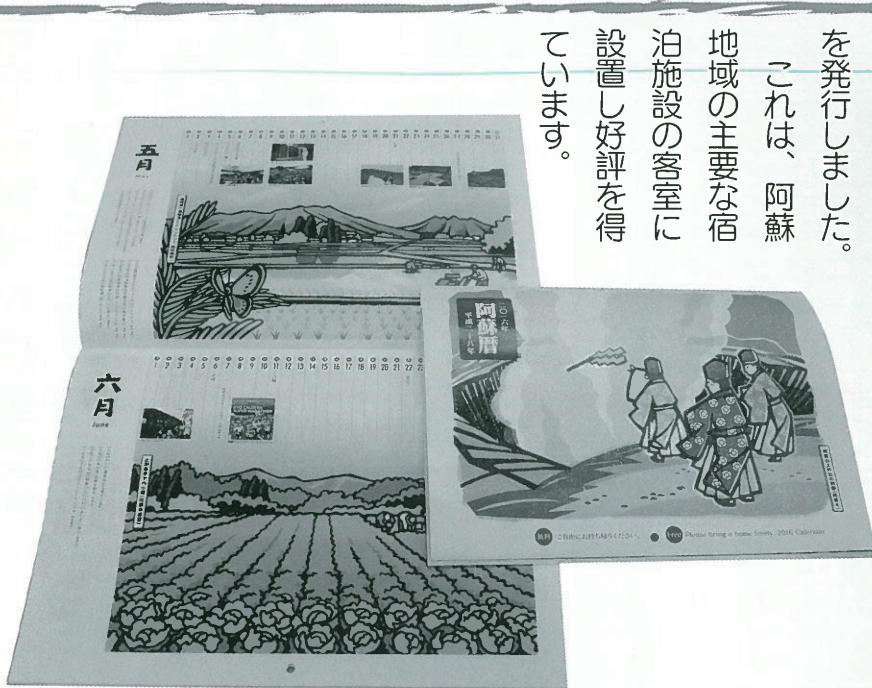


情報発信と人材育成



「阿蘇歴の発行」とラジオ番組で情報発信

阿蘇に、また泊まりにきてね。
「阿蘇暦」の発行
 平成26年度・平成27年度は、阿蘇地域への旅行泊という具体的な行動を起こした人たちに、地域ならではの「コアな着地型情報」を追加的に提供しました。
 宿泊されたお客様だけでなくその方の周辺の縁故ある方たちも含めて再来訪を促すことを目的に、阿蘇歳時記カレンダーブック（イベント情報記載）を発行しました。
 これは、阿蘇地域の主要な宿泊施設の客室に設置し好評を得ています。



ラジオで情報提供 「ゆっぴりのんびりASO大陸」

エフエム熊本が放送するラジオ番組「ゆっぴりのんびりASO大陸」(毎週土曜日、昼12時30分～13時放送)は、デザインセンターが取材先の決定、生電話コーナーの出演者の手配、イベント情報の収集などを行っています。
 番組で阿蘇地域の人や自然、観光地、イベントなどを広く紹介し、阿蘇の魅力をリアルタイムで情報の発信を行っています。
 取材を受けたなど要望があればデザインセンターへお問い合わせください。



阿蘇地域元気再生支援事業



「助成金支援事業」



魅力ある地域づくりと地域の活性化のために
 本事業は、地域の元気再生による地域力の向上を目指し、地域の自然、文化、歴史、産業、生活習慣等の地域資源を発見、活用して、魅力ある地域づくりと地域の活性化を図ることを目的として取組みを行う、市町村や市町村が推薦する団体・グループに対し助成するもので、助成額は事業経費の2分の1(上限50万円)ただし、2市町村以上が連携して行う事業については120万円を上限とします。



助成対象事業の例

- ◆地域の文化、自然、歴史、伝統、産品、産業等を活用したイベント、及び創意工夫に富んだ独創的なイベントや各種ツアー、ズム等の人的交流活動を通じて地域の魅力を高めるために行う事業。
- ◆地域活性化に資する調査研究、研修会に関する事業。
- ◆商店街の集客力や回遊性の向上を目的とした、ソフト・ハードの環境整備、各種イベント、調査研究、研修に関する事業。

平成26・27年度実績として、19団体合計1千万円の助成を行い、イベント、パンフレットや案内板の作成など、元気な地域力向上に取組まれました。今後も引き続き助成活動を行い、デザインセンターの大きな役割の一つである地域活性化に努めます。

阿蘇くじゅう観光圏

❖ 県境を越えた広域連携

❖ 地域独自のブランドの確立

❖ コンシェルジュの育成



- ③ 阿蘇くじゅう観光ブランドセミナー開催
今回は、平成26年9月に世界認定を受けたジオパーク活動と観光圏の取組みを包括した中で、
- ② 阿蘇くじゅう観光ビジュアルイメージ創出
これまで創出してきた滞在プログラムを視覚的に表現するツールとして、代表的な滞在プログラムのプロモーションビデオを作成しました。外国人旅行者への紹介も想定した二カ国語（日本語／英語）で対応しました。以後は阿蘇の体験映像・イメージとしてWEBなどを中心にPRします。
- ① 阿蘇くじゅう観光ツーリストマップ作成
阿蘇くじゅう観光圏全域の誰にも分かりやすいマップを作成しました。
マップ裏面には滞在促進地区や交流地区などの詳細をイラストタッチで表現しました。

ブランド管理事業

地域独自の歴史・伝統・文化を活かした「ブランド」の確立を促進

本事業は、国内外から選好される国際競争力の高い魅力ある観光地域を形成するため、これまでの取組みを発展させ、地域独自の歴史・伝統・文化を活かした「ブランド」の確立を促進し、「日本の顔」となる観光地を目指します。

グローバルな視点に立った観光地域づくりについて考えるセミナーを開催しました。阿蘇くじゅう観光圏と阿蘇世界ジオパークとの連携による相乗効果などについて、セミナー参加者に周知することができました。

**阿蘇くじゅう地域
コンシェルジュ育成研修**

滞在交流型の旅を提供するため、現場での相談など適切に対応する地域コンシェルジュの確立が必要です。

各市町村単位にある観光インフォメーション機能や、地元旅行会社などを地域コンシェルジュとして育成するための研修会を開催しました。

また、本研修会では、各エリアでの現地研修などを取り入れ、情報共有を図り、横の連携強化を含めた受入れ体制の強化を図りました。



ブランドの確立の促進
日本の顔となる観光地

阿蘇

阿蘇カルデラ
～命きらめく草原の王冠～

大分県
竹田市

宮崎県
高千穂町



**県境を越えた広域連携で、
滞在交流型の観光地域づくり**

阿蘇地域は、観光圏整備法に基づき、大分県竹田市及び宮崎県高千穂町と県境を越えた広域連携により、阿蘇くじゅう国立公園の自然、温泉、歴史文化を連携させた、滞在交流型の観光地域づくりを進めています。

**滞在プログラム魅力向上・
改善等事業**

阿蘇くじゅう観光圏ガイド連携システム構築

- 阿蘇五岳、久住連山、祖母傾山の三名山をトレッキングし、カルデラの内外から阿蘇の壮大さを確認する滞在プログラム
- の確立を目指しています。そのためには、互いのフィールドで活躍している山岳ガイドの連携が必須であることから、その体制づくりや共通マニュアルの整備が求められます。これまでの成果を踏まえ、具体的な動きとして、
- 観光圏ガイド連絡会の設置、
 - 3 地域意見交換の実施による課題の抽出、
 - 3 地域連携によるモデルコースの開発、
 - リスクマネジメントに関わる事項の抽出・知識の習得及び連携の仕組み検討、
 - 地域に関する情報の取得・配布・発信の仕組み検討、
 - ツアー客受入れのための連携の仕組み検討、
 - 共通ガイドマニュアルの検討・作成
まで実施しました。



わたしたちが「阿蘇地域デザインセンター」のメンバーです。

ごあいさつ

4月1日付けを持ちまして、

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターの事務局長に就任致しました「江藤訓重」です。



事務局長
江藤 訓重

私は、阿蘇（小国町）で生まれ、阿蘇に育てられました。この間、誇りを持って、人々が住み続けることができる地域を目指して、まちづくりに取り組んで参りました。その30年に亘る経験や人的ネットワークを大阿蘇活性化のために尽くしたく存じます。皆様のご指導とご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

産山村から出向
長浜 光平



高森町から出向
佐藤 謙太郎



事務局
園田 恵美子



事務局
峰松 利彰



阿蘇市から出向
山部 義博



編集後記

WAVEは平成6年度を初刊として、デザインセンター並びに阿蘇地域の様々な情報を地域の皆様にお届けしてまいりましたが、今回をもって終了することになりました。

今後は、地元の広報誌などを利用し、新たなかたちで情報をお届けします。

これまで一方的に情報をお伝えして来ましたが、今後は様々なご意見や地域の声がデザインセンターにいただけるような情報発信に努めてまいりたいと考えます。

長い間WAVEをご覧いただきありがとうございます。

